

平成 28 年度予算編成要領（案）

地方独立行政法人山梨県立病院機構会計規程第 11 条第 1 項の規定に基づく平成 28 年度の予算編成要領は、次のとおりとする。

地方独立行政法人山梨県立病院機構は、平成 22 年 4 月の法人化以降、高度先進医療の確実な実施や県民ニーズに対応した良質な医療の提供に努めてきたところであり、平成 26 年度の業務実績に関し、評価委員会では、「機構の有する人的、物的資源を活用し、救命救急医療、がん医療、精神科救急・急性期医療などの政策医療を確実に提供するとともに、医療の質の向上に努めた」として、「26 年度中期計画の実施状況は優れている」と高い評価をいただいた。また、第 1 期中期目標期間 5 年間の業務実績に関しても、同様に「業務の実績は優れている」と高い評価をいただいたところである。

財務状況についても、第 1 期中期目標期間の経常利益が 69 億円、純利益が 42 億 6 千万円と大幅な黒字となり、この剰余金 42 億 6 千万円全額を第 2 期中期目標期間の建設改良費の財源として繰り越したところである。

第 2 期中期目標期間の初年度である平成 27 年度においては、収益確保と経費削減に重点をおいた取り組みを行っているところであるが、医業収益（入院外来稼働額）は、8 月までの累計で前年度比 3 億 9 千万円の増となっている一方、医業費用は、4 億 8 千万円の増という状況であり、費用が大幅な伸びを示しており、これまで以上の経費削減への取り組みが必要となっている。

平成 28 年度の予算編成にあたっては、的確な収入予測に努めるとともに、費用削減への取り組みを重点的に行いながら、効果的及び効率的な予算の編成を行うこととする。

しかしながら、新規医療需要に柔軟に対応することは県民に良質な医療を提供する山梨県立病院機構の使命であることから、費用削減への取り組みと併せて、医療ニーズを十分に踏まえた予算の編成を行うこととする。

1 基本的事項

- ① 第 2 期中期計画の実行に必要な予算の計上を行うこと。
- ② 患者動向や 27 年度の上半期の実績等を分析し、収益の見直しを行うこと。
- ③ 事務費や委託費等の間接的経費について、徹底した見直しに基づく支出の見積りを行うこと。
- ④ 医業収益を確保するための取組みや医業費用の削減に繋がる新たな戦略的取組みへの予算を計上すること。
- ⑤ 新規医療需要に柔軟に対応した予算を計上すること。

2 収入に関する事項

- ① 医業収益については、患者の動向を的確に把握するとともに、新たな医療需要も十分検討のうえ、見積もること。
- ② 運営費負担金については、原則として、現行の繰入基準により見積もることとし、見直しの必要や新規項目がある場合は、県との協議を経た上で、見積もること。
- ③ 補助金については、国や県の動向を注視し、適正に見積もること。

3 支出に関する事項

- ① 給与費については、現員現給を基礎としながら、28年度の採用予定人員による増員分を加算し見積もること。
- ② 材料費・経費等については、購入量の妥当性、適正な契約方法等の検討を行い、無駄のない支出を見積もること。
さらに、ジェネリック薬品の推進による効果についても適切に反映させること。
- ③ 医業収益を確保するための取組み、医業費用の削減に繋がる戦略的取組み、新規医療需要に柔軟に対応した取組みについては、その費用対効果を検討したうえで、予算化すること。
- ④ 投資的経費（器械備品等）については、中期計画における位置づけを踏まえ、必要性、経済性、後年度負担について、十分検討のうえ、緊急性を考慮し、計画的な施設・設備の整備を図ること。

4 経常利益に関する事項

経営基盤の安定化を図るため、中期計画を踏まえた適切な経常利益、純利益の確保を図ること。

5 概算計画書（会計規程第11条第2項）

概算計画書の様式は、A4横とし、現状の課題・問題点、必要性、積算根拠を簡潔にまとめた資料の作成に努めること。

6 その他

予算関係日程については、別紙「平成28年度予算関係日程表」による。

平成28年度予算関係日程表

※日程は未確定

月	日	摘 要
10	13	予算編成要領の理事会の決議
	13	「概算計画書」作成の各部門へ依頼
11	20	「概算計画書」の企画経理担当への提出期限
随時		企画経理担当ヒアリング(調査検討)
1	下旬	28年度予算の概要説明(理事等)
2	下旬	28年度予算及び年度計画の説明(理事等)
3	中旬	28年度の「予算及び収支計画書」及び「年度計画」の理事会への提出・決議 年度計画の県への届出

